

令和4年度 美作市立勝田小学校学校評価書

美作市立勝田小学校 校長 服部 克彦



1 自己評価

(1) 評価結果

学校評価書 別紙に記入

(2) 分析・改善方策

① 学力と体力の向上

- ・校内だけの独りよがりの授業改善にならないように外部講師に指導助言を仰ぐとともに、授業を外部にも公開して他校の教職員からも視点に沿った意見を出していただきながら、算数科を軸に授業研究の充実を図る。特別支援教育の視点に立ち、個に応じた指導・支援の手立てを明確にし、すべての児童が「わかった」「できた」「またやりたい」と実感できる授業を行う。また、主体的な学びと学力向上を目指して、日常的な授業実践交流に取り組む。
- ・児童が主体的に取り組む授業への転換を図りながら、SSE 推進によって児童の非認知能力を育てることで、落ち着いた学習環境づくり（学級集団づくり）を進める。
- ・家庭学習については、内容や量や質、間違いの直し方や評価方法等、児童のモチベーションを上げる方策について定期的に検証する。

② 豊かでたくましい心の育成

- ・兄弟学年や縦割り班以外の組み合わせ（低・中・高や通学班等）も取り入れ、互いの良さを理解できる場面を増やしていく。
- ・異学年と交流することで、自分に自信がもてたり、上級生としての自覚が深まったりするので、意図的に交流を計画するとともに、児童に活動のねらいを自覚させるための事前の投げかけと事後の評価を工夫したい。
- ・アンケートや各種検査等を活用し、迅速でタイムリーな生徒指導や教育相談を充実させる。

③ 15年間を見通した育ちと学びづくり

- ・取組の成果を検証し、連携表を随時更新するとともに、学期毎に重点的に取り組む項目を決めて組織的に取り組む。
- ・ネット利用ルールの徹底のように家庭の教育力にも頼る部分は、子どもの実態をしっかり保護者に情報発信し、啓発を図る。

2 学校関係者評価委員氏名(6名)

- | | |
|----------------------|----------------|
| ・山根 忠弘 (評価委員長・学校評議員) | ・水島 明美 (学校評議員) |
| ・下山 文男 (学校評議員) | ・福島 信夫 (学校評議員) |
| ・宮元 邦治 (学校評議員) | ・新免美紀恵 (学校評議員) |

3 学校関係者評価

- ・読める・書ける（理解できる）、計算できることが基礎であり、定着度90%は高評価と言える。引き続き児童の学習意欲の維持に期待する。AI に対して高い質問能力を持つ人が高評価を得られることが当たり前になる。回答能力より、課題発見力や質問能力の方が今後重要な時代になるので、そのために必要な国語力に早く気づくよう指導の工夫を望みたい。
- ・家庭学習に成果を感じ、より効果もてるような方法をしっかり考えていただきたい。例えば、復習しない場合と復習した場合の「学習内容の定着度」を自己分析させてみることで、復習の効果を理解できると考える。
- ・地域の人材をもっと活用し、自己の夢やめあてに向かって、最後まで努力する児童を育てていただけることを大いに期待する。

4 来年度の取組の重点(学校評価を踏まえた今後の方向性)

(1) 学力と体力の向上

校内研究テーマ『だれもが楽しいと感じる授業づくり』

～算数科の授業を中心にして～

- ・授業改善の徹底（授業力の向上）
主体的、対話的で、深い学びを促し「わかった」という手応えが実感できる授業づくり
- ・家庭学習と授業をつなぐ ICT 活用の推進（2学期から毎日持ち帰り）
- ・特別支援教育の視点を明確にした公開授業研究の推進
- ・表現力を育てる「言語活動」の充実（ふり返りを書く時間の確保）（ICT 活用促進）
- ・補充学習の取組の徹底（朝学習・放課後学習）及び補充学習強化月間の計画・実施
- ・家庭学習の習慣化（基礎・基本必須課題、選択自主学習の工夫）
- ・読書活動の充実（言語能力、読解力の育成）
- ・運動に親しみ、目標を持ち年間を通して取り組む体力づくり

(2) 落ち着いた学習環境づくり

- ・積極的な児童理解「寄り添い、変化を見取り、認め、褒める」
- ・児童相互が認め合い、高め合う学級集団づくり（思いをつなぐ学級経営）
- ・言葉を大切に、自分の思いを表現する力の育成
- ・特別の教科「道徳」を軸とした「道徳教育」「人権教育」の充実
- ・教育相談の充実（i-check・各種アンケート等の活用、SC・SSW との連携）
- ・未然予防と早期対応を基本とした危機管理・生徒指導（報告・連絡・相談・確認の徹底）
- ・保護者との連携強化（細やかな情報共有と丁寧な対応）

(3) 特別支援教育の充実

- ・細やかな情報共有と環境づくり
- ・特別支援学級を核とした個に応じた指導・支援体制の構築
- ・特別支援教育に対する理解の促進（児童・保護者・職員）
- ・校内委員会の活性化と関係校・関係機関との連携促進

(4) 自己肯定感の育成

- ・地域と協働した多様な体験や学びづくり（地域学習・支援ボランティア・外部講師）
- ・児童会や委員会活動の活性化（望ましいリーダーの育成と主体的・自治的な活動の考案）
- ・意図的な異年齢及び異学年での交流活動（縦割り班、兄弟学年）
- ・人権意識や規範意識の醸成、非認知能力の育成

(5) 「15の春プロジェクト」の推進

- ・小中一貫教育カリキュラムの推進（「学びの時間」・合同行事を生かす）
- ・保幼小連携及び小小連携の促進（スタートカリキュラム・情報共有・園と連携した就学指導）
- ・キャリア教育の充実（夢講座）
- ・「学びと育ちの連携表」の共通理解と保護者への啓発

(6) 校内協働体制づくりと人材育成（認める、支える、高める教職員集団）

- ・主体的、組織的に、徹底する（細やかなPDCAサイクル）
- ・各分掌「チーム」での創造的な活動による組織の活性化
- ・「子どものために」という基本姿勢（「楽しむ」発想と熱意）
- ・校内OJTを中心とした人材育成の推進